

なんもく 山村ぐらし通信

第3回移住者との交流会に参加しました！

～県庁職員地域政策課・黒岩誠氏寄稿～

私も第3回南牧村・移住者との交流会に参加してきました！

平成28年2月27日(土)

午後6時から村内の飲食店を会場に、南牧村への移住者と山村ぐらし支援協議会メンバーによる交流会が開催されました。

1月に移住者との交流会を初めて開催して以来、3回目の交流会開催となりました。今回は村の「古民家バンク」を利用して平成24年度から平成27年度に村へ移住してきた9名の移住者と協議会メンバーのほか、平成27年4月から地域おこし協力隊として村へやってきた3名の若き隊員達。南牧村への熱い想いを寄せつ

もこの春の異動により、後ろ髪を引かれる思いで県警担当となった上毛新聞社・高野さん。いつも協議会メンバーの皆さんや役員職員の皆さんのお世話にばかりなっている県庁若手職員3名など総勢24名が出席し、盛大に交流会が開催されま

した。会の途中からは長谷川村長も会場へ駆けつけていただき、会場のそこかしこに笑顔があふれるとともに、参加者同士での話に花が咲いていました。時間が経つのも忘れ、会場となった飲食店の閉店時間おそらく午後10時くらいでした。たか・こになるまであつという間に過ぎてしまいました。

今、この国では「地方創生」の名の下に、全国各地が大

交流会が一つの大きな家族の集まりのように見え、顔と名前の分かる関係性というものはいいものだなあと改めて感じま



見かけたことのない人もいないかもしれませんね。

都市圏からの移住者獲得競争にしのぎを削っています。地方への移住」というブームに乗り、地方を目指す人が多いのかもしれないが、実際には移住しても地域になじめず出て行ってしまう人が相当数いることも事実です。そこで、移住してきた人たちと地域をつなぐ役割を果たす人や組織の存在が求められています。南牧山村ぐらし支援協議会は、まさにこうした移住者と村民との橋渡しをする組織ではないでしょうか。

な温かい人たちが暮らす村をこれからも影ながらしっかりと支えていきたい、そう改めて感じた交流会となりました。最後は話が大きく脱線してしまいました。前橋に住む協議会メンバーのひとりとして、今後南牧山村ぐらし支援協議会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



new はじめまして！
村人(むらびと)紹介

3月末に吉井町から移住してきた植田初美 ほんみさん。これまで一年余り、自然農園まほらまでお手伝いをしながら通い続けてきた南牧村。触れ合いたいと後押ししてくれたのだそうです。管理栄養士としての経験を活かし、地元野菜や食材からの加工食品など、食を通して、なんもく、らしさを追求してゆけたらと嬉しそうに話していました。古くから伝わる知恵と食をエッセンスに「はつみさんらしい食を通して情報発信を楽しみにしています。

南牧に育って早60数年が……。この間、村の人口や産業も大きく変わりました。特に子供達の出生率や村を離れる子育て世代。若い人達の少なさに驚き、村の将来を考えると恐怖心さえ感じます。子供の声の聞こえない地域が多数有り、多くの住民が淋しい思いをしています。その様な中で、支援協議会皆様の取り組みや行動には、いままでの南牧には無かったものがあり、頭の下がる思いが致します。町には町の、物や生活が有り、山村には山村の特色が有ります。地方創生を期に補助金目当てで政策に迎合し、地域の特色や宝物を見失うことの無いようにすることは大切な事だと思えます。少子高齢化を防ぐ特効薬やヒーローはなかなかありません。地域の状況は住民が一番熟知していますが、気

我・想・明・村

～体は60代だけど気持ちは熱き青年のまま。生粋の村人より～

づいていない面も多々ある様に思います。時には外部の知恵もお借りして、今出来ること、今やるべきことを小さなことから積み重ねて行動すること、繋がりがや発想が生まれるのではないのでしょうか？地域活性化の対策等を言葉や活字にすることは容易に出来ませんが、その施策を実施し、尚且つ継続することは大変な作業であり、一番重要なことだと感じます。もちろん経済面だけの村創りだけではなく、個人の価値観にも共有して行くことではないでしょうか。今後は増々行政や補助金頼りでは難しくなっていくと思えます。これからこの村に移住してくる人達や、すでに定住されている人達が、時には地域の人の冷淡な視線にも怯むことなく、村の現実を直視した意見を若い人達と共に「見える声」として多くに発言していただきたいと思っております。拙文になりましたが、最後に今後も益々の山村ぐらし支援協議会の活躍を期待しております。

2016(平成28)年5月発行
通巻第17号版(春季号)

発行責任者：金田 鎮之
問合せ 南牧村役場
村づくり・雇用推進課
電話 0274-87-2011(代表)

紙面編集：協議会広報班
発行元：南牧山村ぐらし
支援協議会



協議会QRコード

協議会HP
<http://nanmoku.org/>
古民家バンク情報がサイトに
内に移設されました。

【27年度1～3月 空家問合件数】

電話による問合せ12件
(1月 8件)
(2月 2件)
(3月 2件)
メール・手紙・FAXでの問合せ5件
(1月 2件)
(2月 2件)
(3月 1件)
現地物件見学案内5件
(1月 2件)
(2月 2件)
(3月 1件)

【協議会ホームページの 訪問・閲覧状況報告】

※4/25現在・過去90日間

ページ閲覧数	78,828
サイト訪問数	6,337
サイト訪問者数	3,985
(同一人は1とカウント)	
ページ閲覧数	平均12.44ページ閲覧

現在、移住を希望される方に紹介できる
空き家情報が不足しています。

【ご協力をお願いします!】

役場・村づくり雇用推進課 担当・石井
電話0274・87・2011 代表

ぜひ「ご協力をお願いします!」
とお願いいたします。

※荷物はまだいっぱい残っているからなあ...。
※心配いりません!内部の片付けや処分等、村と協議会でお手伝いしています。
※かなり傷んでいるから直さなくちゃならないかなあ...。
※基本的には現状で紹介し、補修や改修等は借主の負担で行うこととなります。
※賃貸契約とか面倒な手続きはちよつとなあ...。
※契約に関する相談や手続きは村役場担当課の職員が丁寧に説明をしてくれます。
※「ご協力をお願いします!」という方は是非コチラまでご連絡ください。

南牧村のお祭り案内

4月。六車では「カタクリこみち祭り」星尾の「星尾諏訪神社御柱祭」黒滝の「黒滝不動明王春季例大祭」などがあります。そのほかにも、さくら保育園では「千原観音祭」や各地域にある神社のお祭りなどが行われたことと思います。星尾諏訪神社の御柱祭は6年に1度のお祭り。今年も大変盛り上がりました。南牧村にも大小さまざまなお祭りが

ありますのでご紹介。
5/3 山菜まつり、8/14・15 ふるさと祭り、8/14・15 大日向の火とほし、9月 警戸神社秋祭り、9月第2土曜日、南牧村農業祭前期・9月、後期・11月、檜澤神社節分祭、節分前の日曜日等々。地域を知り、人を知り交流を深めることにより地域の活性化に繋がっていきます。これからもお祭りや行事などをこの通信でも紹介していきたいと思っております。



大入道の景色

今回僕が紹介するのは、檜澤地内にある知る人ぞ知る絶景ポイントです。ぶらぶらと行くのはちょっと大変かもしれませんが、その名もズバリ「大入道」におおにゅうど「う」。湯ノ沢トンネルに続く県道45号線へアピンカーブを過ぎて旧道「塩ノ沢峠」方面に進み、900m程行くと右側に渡る橋があるの道。橋を渡って林道を進み、途中落石注意な場所もあるので気を付けて下さい。(急な上り坂)

“ぶらいなんもく村”

～絶景かなあ絶景かなあ!大入道の巻～

にも急なカーブにも負けずに進んで行く。何軒かの民家が見えるので、そこまでいったらゴールです。疲れきって下を向いている顔を上げて、谷を挟んだ反対側の山を見て下さい。春には綺麗な花木に、夏には輝く深緑に、秋には鮮やかな紅葉に、冬には真っ白な銀世界に囲まれた中に、何軒かの家がぼつんと建っている景色が楽しめます。また一番のお勧めは雨上がりの霧が谷間に立ち込めた、霧の上に家が建っている景色です。具体的にこんな感想です!とは上手く表せませんが「ここに小さな小屋を建ててホエ〜♪と見ていた!」が感想です。車で行く際は道が狭いので充分注意してくださいね。
取材・中沢特派員

編集後記

年度替わりの慌ただしさも一段落した5月。新たな人員や新たな体制で動き出したところも多かったのではないのでしょうか。山村ぐらし通信もコツコツと発行を続け、ようやく17号を発刊するに至り、何事も継続してゆくことの難しさを、これでもかっ!というほどに感じているところなのです。これまで多くの方々に情報の提供や寄稿、取材協力等々のご協力を頂いたこと、改めて感謝しています。この年度替わりを機会に協議会もメンバーの体制を改め、今自分たちで出来ることをコツコツと続けてゆきたいと思っております。
継続は力なり

タイムラプスなんもく号

消防設備今昔編



新旧の揃い踏み

先日、星尾地区で行われた星尾諏訪神社「御柱祭」社周辺を歩いていると、大



昔はこうやって伝達してたんですね。

の見櫓」を発見!火の見櫓を見るのも久しぶりだなと思いつきながら、近づいて見ると

と状態もよく、櫓には鐘を鳴らすときの打ち方の看板があり、横には、いま使用している防災無線が建っている、防災器具の今と昔の様子が見られました。また、鐘の打ち方を記した看板には、どこもサビが見られ、レトロな雰囲気と共に新鮮さを感じました。有事の際には地区の消防団員が櫓を駆け登り半鐘を打ち鳴らして火災を伝えたことだろうと想像が膨らみます。火の見櫓も防災無線も、この場所で見守られているんですよ!歩いて地域を見渡すことは、新しい発見ができることを改めて感じました。また地域を歩いてみようかな!写真は、立岩と満開の桜をバックに撮ってみました。
取材・弘のヒロ氏